

# 樹覚寺門信徒だより

浄土真宗本願寺派

樹覚寺 足利市本城三丁目2055

編集

門徒推進員

\*\*\*\*\* 浄土真宗生活信条 \*\*\*\*\*

- 一) み仏の誓いを信じ 尊いみ名をとなへつつ 強く明るく生き抜きます
- 一) み仏の光をあおぎ 常にわが身をかえりみて 感謝のうちに励みます
- 一) み仏の教えに従い 正しい道を聞きわけて まことのみのりをひろめます
- 一) み仏の恵みを喜び 互いにうやまい助けあい 社会のためにつくします

## ☆宗祖 親鸞聖人降誕会法要☆

==親鸞聖人のご誕生をお祝いする行事でございます==

親鸞聖人は 承安3年(1173年)5月21日京都の日野でお生まれになりました。仏教では一般に行事といえば人が亡くなってからの年忌法要等が多い中で、お釈迦様のお誕生祝う【花まつり】と並んで聖人のお誕生を祝う【降誕会】が毎年行われていることは私たちにとって特別に意義深いことでもあります。

◎期日 5月14日 (第2土曜日)

◎時間 午後1時30分～2時10分・・・法要 正信偈

午後2時20分～3時20分・・・法話 絵解き

法要には、浄土真宗本願寺派・栃木南組の各寺のご住職さまがご出勤し、お勤めして下さいます。

法話は、《安藤けい一先生》です。

親鸞聖人のご生涯をまとめた絵物語を【御絵伝】と申します。

その【御絵伝】を琵琶の弾き語りで、分かり易く説いて下さいます

☆☆☆【御絵伝】の解説を次のページに掲載致しました。ご参考下さい。☆☆☆当日はお楽しみの豪華な賞品が当たる福引・焼きまんじゅう・寒天、婦人会の皆さんによるお茶の接待がございます。「やまゆり学園」さんの心を込めて作られた野菜・クッキー等の販売や「ピーターパン」さんの美味しいパンの販売もがございます。

多くの皆様のご来寺をお待ち申し上げます

# 【御絵伝】 解説

## 第1軸

親鸞聖人は京都伏見の日野の里にて御誕生され、幼名を若松丸と申され、わずか9歳の身で、慈円和尚の坊舎で僧侶になる儀式(お得度)を受け出家されました。その時、夜も近いから、明日にしましょうと一旦断られましたが、聖人は『明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは』と詠まれ、その日にご出家をされました。

その後聖人は、範宴(はんねん)と名乗られ、比叡山に登り、20年間の厳しい修業と勉学に励まれましたが、修業をつめばつむ程あきましい自らの心が目立つばかりで、苦悩の解決は出来ませんでした。そこで万人が救われる真実の道を求めて、29歳の時に山を下りられ、京都の六角堂にこもられ、そこで聖徳太子のお示しに導かれて吉水の法然聖人(当時69歳)をたずねられました。法然聖人から「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」とお聞きし、このお方なら、たとえだまされ地獄に落ちてでも後悔しないと思ひ、生涯の師とされました。

## 第2軸

親鸞聖人が法然聖人から『選択本願念仏集』を授けられました。ある時親鸞聖人が「お浄土へ行くことは、ご信心で決まるか、念仏の行をはげむことで決まるか」と、お弟子たちに確認したいと、法然聖人に相談しました。「ご信心でお浄土へ行くことが決まる」という場所には、数人のお弟子と親鸞聖人、駆けつけた法力房(熊谷直実)、最後に法然聖人が座りました。ある時親鸞聖人が、「法然聖人のご信心と、わたしのご信心は同じです。」と話し、お弟子たちに厳しく咎められました。すると法然聖人は「ご信心は阿弥陀如来から賜るもの。同じだからお浄土に行けます」とおっしゃいました。時代は変わって、親鸞聖人70歳の頃のお弟子の入西が、聖人に絵姿をお願いするより先に、聖人がその気持ちを察して、「定禅という絵師に書いてもらうといい」と言われました。定禅は、「夢の中で描いた生身の阿弥陀如来である僧侶こそ、親鸞聖人でした。」と感動の涙を流しながらお姿を描かれました。

## 第3軸

お念仏の教えが広まるにつれ、それまでの仏教諸宗との摩擦が起こるようになり、仏教諸宗から朝廷へ、念仏停止の申し出が奏上され、承元元年(1207年)念仏停止が決定されました。親鸞聖人は、越後(新潟県)へ、法然聖人は土佐(高知県)へ流罪の身とされました。法然聖人75歳、親鸞聖人35歳、この日を最後にお二人はこの世で再会することはありませんでした。39歳の時に罪を赦され、京都に戻られず、関東の常陸(茨城県)へ向かい、稻田の草庵にてご教化されました。ところが、聖人の草庵に多くの方が訪れる様子を快く思わない山伏が現れ、その中の弁円という山伏が、ついに聖人の命を奪わんと草庵に押しかけたが、聖人の立ち振る舞いに接して弓矢を折り、刀を捨てて、弟子となり、明法房の名を授けられました。

## 第4軸

およそ20年住まわれた関東をあとに聖人は京都に帰られ、後の人々のためにひたすら著述に励まされました。1262年(弘長2年)11月に体調を崩され、それ以来、ただ阿弥陀如来のご恩と、お念仏が絶えることがなかったそうです。11月28日、今の暦では1263年1月16日のお昼頃、お釈迦さまお亡くなりになった時と同じように、頭を北に、右脇を下に、西を向いて往生されました。御年90歳。お念仏のうちにお浄土へ往生されました。



## 樹覚寺仏教婦人会総会開催

平成28年度の樹覚寺仏教婦人会の総会が 4月8日(金) 午前10時30分より  
(あけし会館)に於いて開催されました。

### 記

- |           |            |      |         |
|-----------|------------|------|---------|
| 1. 平成27年度 | 事業報告・決算報告  | ………… | 承認されました |
| 2. 平成28年度 | 事業計画・収支予算案 | ………… | 承認されました |

### 《今年度の当面の活動について》

- ☆ 春・秋の彼岸とお盆の香華販売 (会の運営補助金とさせていただきます)
- ☆ 6月22日(水) 栃木南組仏教婦人会総会 =妙傳寺=にて開催
- ☆ 8月8日(月) 樹覚寺仏教婦人会・仏教壮年会の物故者合同追悼法要
- ☆ 9月18日(日) 全戦没者追悼法要 **\*\*今年は、樹覚寺にて追悼法要をお勤めいたします\*\***

本年度も婦人会活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 樹覚寺仏教壮年会総会の予定

平成28年度樹覚寺壮年会の総会が5月28日(土)にあけし会館に於いて開催予定です。会員の皆様には地区役員(寺の世話人)さんを通してご連絡致しますので、会員の多数の皆様がご出席下さいますようお願い申し上げます

**☆☆お願い☆☆**

壮年会・婦人会の各会員を募集しておりますので

ご検討くださいますようお願い申し上げます

## 糞入りスープの味

(仏教説話集より)

あるところに、手広く綿の木を栽培して生活している人がいました。

この木は時を過ぎさず取り入れないと色があせてしまうので、時期になると、多数の人を雇い入れて、昼夜の刈り取りに休む暇もなかった。その日もその主人は雇い人とともに労働していたが、彼はたいそう肉を混ぜたスープを好物としていた。

さて、その日の夕食時、スープが煮えてきて、その香気が四方に広がり始めた。その時ちょうど一羽の老いたトビという鳥がそのスープの上に飛んで来て鍋の中に糞を落として何くわぬ顔をして飛び去った。料理人は驚いて、その糞のはいったスープを捨て去ろうとしたが、そのうちに糞は溶けてなくなってしまった。そこで料理人はスープを改めてこしらえようとしたが、食事の時間が迫っていたのでその時間がない。そこで横着な料理人は、「このくらいの不浄が混じっていても味に変わりはない。自分だけ食わずにいればよいのだから・・・」と、そのまま食卓にのせたのであった。その主人をはじめ、多数の人々は空腹だったので、そのスープを腹一杯たいらげた。すると、その主人は料理人を呼び、「大変おいしかったよ、今日の料理は。ひとつ君もスープを味わってみないかね。」と、親切に勧めた。そこで料理人はやむなく、糞の混じっている事を知られるのを恐れ、強いてスープの味の善し悪しなど何もかかわらずに、飲み込んでしまったということです。その昔、お釈迦さまが王舎城の靈鷲山にあって人々を集めて説法された頃のお話です。

悪行には必ず悪の報いがあり、他人の事を顧みないものは、

自分にも必ず禍が帰って来るといいう教えです。